

令和5年度事業報告

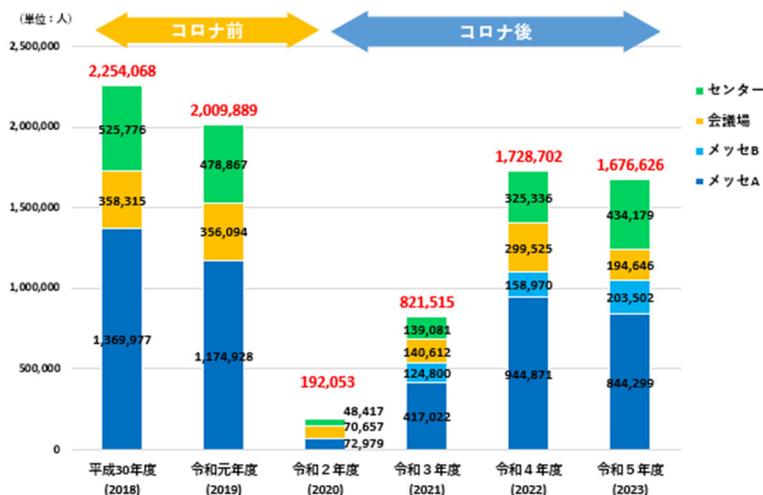
1 コンベンション事業の概要

一般財団法人福岡コンベンションセンター（以下「財団」という。）は、福岡国際会議場、マリンメッセ福岡A館、マリンメッセ福岡B館及び福岡国際センターを管理・運営する法人として、福岡市及び公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー（以下「FCVB」という。）と連携し、様々な国際会議や大規模な学術会議、展示会、世界的なスポーツ大会等のMICEの誘致・開催支援を行っている。

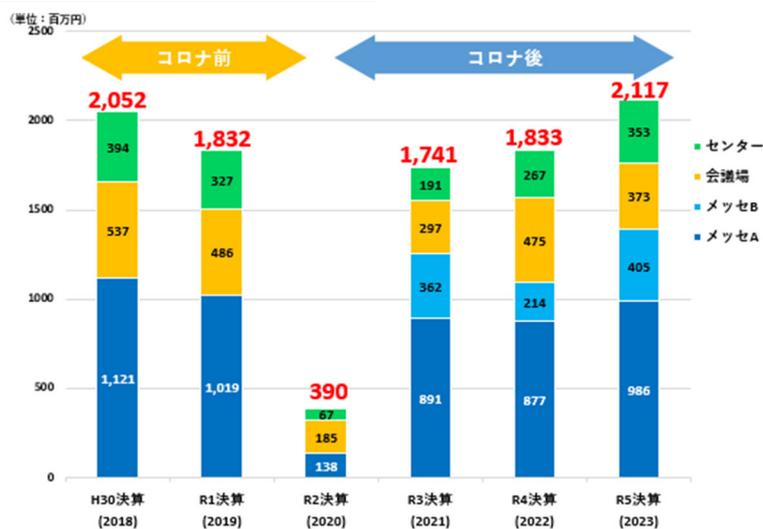
第4期指定管理期間（令和元年度～令和5年度）として、施設の利用率及び顧客満足度のさらなる向上を図るため、財団が有するMICE誘致・運営のノウハウ等を活かし、適正かつ効率的、効果的な管理運営に取り組むとともに、福岡市が重点分野として位置付けるMICEの誘致により、地域経済の活性化、学術文化の振興に貢献している。

令和5年度は世界水泳選手権2023福岡大会（以下「世界水泳」という。）が開催され、財団においても適切に施設管理を行うとともに、おもてなし事業として観光庁の助成金を活用し、施設のライトアップやプロジェクションマッピング、インバウンド向けの文化体験プロモーションブースを設置するなど、コンベンションゾーン一帯の賑わいづくりと福岡の魅力発信に取り組んだ。

参考1：コンベンション施設入場者数の推移



参考2：コンベンション事業収入決算の年度別推移



2 主要施策

(1) 戦略的なMICE誘致

令和5年度から新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことを受け、積極的な誘致活動を再開し、コンベンション事業の拡大を図り、更なる経済波及効果の向上に向けた取り組みを行った。

①営業戦略の策定

次期指定管理期間（第5期：令和6年度～令和10年度）における目標達成と、コンベンション事業収入25億円を目指し、5つの営業戦略を策定した。

営業戦略1 マーケティングに基づく新規催事の獲得

営業戦略2 マリンメッセ福岡B館の利用促進

営業戦略3 コロナ禍で取り止めとなった催事の追跡

営業戦略4 国際会議・学術会議の積極的誘致

営業戦略5 利用率向上に向けたリピーター調整

②日程調整会議の新設

施設利用率向上を目的として、将来開催が見込まれる学術会議や展示会等を見据え、開催規模や主催者のニーズに合わせた最適な施設を提案できるよう、営業推進部内や関係者間での情報共有、リピーター及び新規催事の調整を定期的に行った。

③顧客情報の収集

首都圏・関西圏への定期的な訪問営業や日々の営業活動等から得るキーパーソンや開催都市選定等の情報などを集約した受注確度の高い案件をリストアップするなど、効果的かつ持続的な情報収集を行った。

また、福岡市及びFCVBと共同運営をするMeeting Place Fukuoka（以下「MPF」という。）において、誘致案件のターゲットの抽出及び共同営業を行った。

④中長期的な人脈の構築

地元大学をはじめ首都圏・関西圏への顧客への訪問営業を積極的に展開し、今後を見据えた人脈形成に努めた。

⑤顧客サービスの充実に向けた取り組み

学術会議等の誘致において他施設との差別化を図るため、オリジナルラベルのペットボトル制作、学会歓迎バナーの設置等、主催者支援メニューの充実に取り組んだ。

また、施設の案内において、携帯性に優れたポケットサイズの施設案内パンフレットを作成するとともに、施設周辺の飲食店や観光スポット、駐車場やコンビニ情報等、主催者・来場者が求める情報をひとつにまとめた電子マップを作成するなど、サービスの向上に努めた。

【福岡コンベンションセンター周辺マップ URL】

<https://unlocks.jp/w/?id=w8516215a36dba648&catalog=false>



(2) デジタルトランスフォーメーション (DX) の推進

ノートパソコンやタブレット端末等を活用したペーパーレス会議等の推進により、ペーパーレス化を推進した。

また、職員の労働状況の把握と業務効率化を目的とした勤怠管理システムを導入し、各種申請をデジタル化することにより効率的な勤怠管理が可能となった。

福岡国際会議場の中・小会議室について、利用者の利便性向上等を目的として、予約、申請、打合せから請求に至るまでを Web 上で完結できる電子申請導入に向けて、他施設の動向やシステムの仕様等について調査・検討を行った。

令和6年度中の導入、令和7年度からの運用開始を目指している。

(3) チャレンジする組織へ

①職員のスキルアップ

【職員研修の実施】

全職員を対象とした接遇研修や個々に求められる能力を向上させることを目的とした昇任者研修などを実施した。

また、長期的かつ総合的な観点で職員の能力開発を効果的に推進するため、人事管理や評価制度、研修、職場環境の整備に関する取組みの柱として、新たに「人材育成方針」を策定した。

【自主企画事業の実施】

財団職員が主体的に企画・運営を行う自主企画事業を実施した。

- ・世界水泳おもてなし事業（令和5年7月～8月）
- ・小学生向け世界観光の日ワークショップ（令和5年9月）
- ・インバウンド向け飲食コーナープロデュース（令和5年12月）
- ・緑道へのキッチンカー設置（試行）（令和6年3月）

②コンベンション事業収入25億円への挑戦

国際会議場の大規模改修などがある中でも、積極的な誘致活動やきめ細やかな日程調整などを行い、コンベンション事業収入は約21億円となり、令和4年度と比較して約2割増となっている。

③誘致活動の強化

FCVBと連携し、展示会・見本市を誘致するための新規パンフレットの作成やアフターコンベンションメニューの充実を図るためユニークベニュー事業者と情報交換を行い、誘致活動の強化に努めた。

④広告事業の実施

新たな収益事業及びMICEの推進に資する取組みの一環として、令和5年度より施設を活用した広告事業を開始した。

(4) 人材育成

職員の能力開発として、令和5年度はFCVBへの職員1名に加え、新たに福岡市へ職員3名を派遣し、様々な立場や視点での経験を積ませることで人材育成を図った。

FCVB派遣：1名（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

福岡市MICE推進課派遣：1名（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

福岡市世界水泳担当派遣：2名（令和5年4月1日～令和5年8月18日）

(5) お客様ファースト

催事の準備・開催にあたっては、利用者に安全に安心してご利用いただけるよう、職員間・防災センター・舞台事務所の情報共有を徹底し、適切な運営体制の構築に努めた。

利用者の立場に立ち、各施設の特性を踏まえながらサービスを提供し、新規利用の主催者をはじめ、すべての利用者に対して、事前の打ち合わせから開催当日の対応に至るまで、きめ細やかなサポートを行った。

また、世界水泳開催時や福岡国際会議場大規模改修期間など、通常利用とは異なる場合においても、主催者、来場者の安全等を最優先に考え、状況に応じた対応を行った。

3 各施設の重点施策

(1) 福岡国際会議場

①国際会議・学術会議の誘致

九州大学をはじめとした県内各大学、首都圏・関西圏の学会事務局を中心とした訪問営業を強化するとともに、海外での国際会議の誘致プレゼンに参画したほか、MPFと共同で訪問営業活動及び大型MICEの誘致プレゼンに参加するなど、オール福岡での積極的な営業活動を展開した。

その結果、第69回日本リウマチ学会総会・学術集会（2025年4月）や第21回世界観光ガイド連盟会議（2026年2月）など、合計35件の国際会議・学術会議の誘致に成功した。

更に、日本政府観光局が主催するMICE誘致のための商談イベントである国際MICEエキスポ（IME）へ出展し、約20件の国際会議・学術会議主催者と商談を行い、現在も個別に誘致交渉を継続している。

②中・小会議室の利用拡大

利用率向上のため、全館利用やフロア単位での利用が考えられる各種試験や就職説明会、新規展示会の主催者への営業活動を行った。

また、大規模改修工事期間（12月から3月まで）について、リピーターに対し国際センターでの代替開催の提案を行うなど、最小限の流出に努めた。

新規顧客に対しては、施設の魅力を伝える新たなプロモーション動画や会議室の空き状況をホームページで公開するなど、最新の情報発信を行った。

(2) マリンメッセ福岡A館・B館

①首都圏、関西圏からの大型展示会の誘致及び新規展示会の創出

福岡地域戦略推進協議会および福岡アジア都市研究所と共同で MICE 誘致のターゲットとすべき地域特性や成長市場のマーケティング調査を実施し、詳細なターゲティングを行った。

新規展示会の誘致については、MPF と共同営業を行ったほか、イベント総合エキスポ (LIVeNT) へ出展し、広報活動や助成金を活用した開催の可能性についてヒアリングを行うなど施設PR や情報収集に努めた。令和5年度は Sneaker Con 福岡 (2024年4月)、少林寺拳法全国大会 in 福岡 (2026年11月) の新規催事の誘致に成功した。

②コンサート・興行数増に向けた調整

コンサートプロモーター等との日程調整に努め、マリンメッセ福岡A館はもとより、マリンメッセ福岡B館においてもコンサート・興行数を拡大できるよう積極的に営業活動を行った。

(3) 福岡国際センター

①リピーター顧客の調整

過去に利用実績のある催事をリスト化するとともに、コロナ禍で開催を見合わせた主催者に対し、催事の再開について営業活動を行った。

②企業個展に対する営業強化

地場企業等をターゲットに、他施設で開催されている催事の実施状況や最適な会場規模・開催時期・期間などの情報収集を行い、新たな企業個展の開催に向けて営業活動を行った。

③代替施設としての調整

マリンメッセ福岡A館・B館で開催された世界水泳及び福岡国際会議場の大規模改修工事に伴い、各施設で開催できなくなったリピーターに対し、代替施設としての会場提案を行った。

4 お客様満足度の達成

①質の高いサービスの提供

催事主催者へ施設利用に関する的確なアドバイスやきめ細かなサポートを行った。

接遇と業務知識の向上を目指したOJT体制を整えたうえで、催事対応を行っている。

なお、令和5年度の主催者アンケートでは、すべての施設において満足度はほぼ100%となった。

○主催者アンケート (大変満足・満足)

	福岡国際 会議場	マリンメッセ 福岡A館	マリンメッセ 福岡B館	福岡国際 センター
総合満足度	99.0%	100%	100%	100%

②備品・設備等の適切な更新

令和5年度中に更新・追加を行った主な備品は以下のとおり。

福岡国際会議場	・主催者、来場者用複合機付属パソコンの更新 ・貸出備品（音響機器、映像機器）の更新・追加 ・メインホールステージ用ステップに手すり追加
マリンメッセ福岡A館	・ロールバック仮設席用椅子の座面等張替え
マリンメッセ福岡B館	・搬入口グレーチングを細目仕様に取り替え
福岡国際センター	・可動席座面シート取り付け

5 施設の維持管理

福岡国際会議場の大規模改修工事に開館以来初めて着手するとともに、各施設について、長期保全計画に基づく設備機器の更新・保守管理・予防保全を計画的に実施した。

【各施設の主な修繕等の内容】

(1) 福岡国際会議場（休館期間：令和5年12月3日～令和6年5月20日）

令和5年度から施設の所有者である財団において大規模改修工事を実施した。

大規模改修に伴う主な工事	その他工事
○特定天井他改修工事 ○内外装改修工事 ○案内サイン改修工事 ○電子錠設置工事 ○一般照明及び特殊照明 LED 他改修工事 ○便所衛生機器改修設備工事 ○エレベーター制御改修工事 ○エスカレーター制御改修工事 ○舞台機構設備更新工事 ○舞台音響設備更新工事	○Wi-Fi 設備更新工事 ○2、3階ファンコイルユニット修繕工事 ○各階避難口誘導灯改修工事 他

(2) マリンメッセ福岡A館

施設の所有者である福岡市が改修等を実施し、緊急修繕等については必要に応じて財団が実施した。

財団が実施した修繕	福岡市が発注した工事
○建物設備緊急修繕	○催事者エントランス空調機器更新工事 ○山のモール南側壁改修工事 ○2階海のモール漏水修繕工事

(3) マリンメッセ福岡B館

施設の所有者である福岡市が改修等を実施し、緊急修繕等については福岡市が契約するPFI事業者が実施した。

(4) 福岡国際センター

改修等については、施設の所有者である財団が実施した。

財団が実施した修繕	
○Wi-Fi設備更新工事	○監視カメラ設備改修工事
○空調機用サイレンサー取替修繕	○1階ロビー天井埋込照明 LED 改修工事
○空調用ダクト老朽部修理	他

6 安全対策・危機管理対策

消防計画に基づく定期的な消防訓練の実施に加え、適宜危機管理マニュアルの更新を行った。

また、財団職員及び各施設防災センター等の職員に、救命講習や各種防災研修を積極的に受講させることにより、安全意識および防災知識・技術の向上に努めた。

催事主催者に対しても、施設利用方法や防災指針についての説明を行うとともに開催時の現地確認を徹底し、安全対策に努めた。

(参考)

実施日	訓練概要	施設名
6/19	実放水訓練及び高潮対策訓練	4施設合同
1/17	火災を想定した総合消防訓練	マリンメッセ福岡A館
1/19	地震を想定した総合消防訓練	国際会議場
1/23	火災を想定した総合消防訓練	国際センター
1/26	火災を想定した総合消防訓練	マリンメッセ福岡B館

7 SDGsの取組み

「福岡コンベンションセンターSDGs取組方針」を策定し、職員の意識の醸成を図りながら、事業活動を通じて関連のあるSDGsの取組みを推進した。

【取組内容】

- 福岡国際会議場大規模改修工事で、照明のLED化、総合案内に4カ国語を表記
- 福岡国際センター1階ロビー等の一部照明のLED化
- 4施設すべての電力使用量を監視し電力デマンドを抑制
- 国際会議場案内サイン改修（多言語表記、最新のJISピクトグラムに変更）
- 公共交通機関の利用促進
- シェアモビリティの導入（EVスクーター「ラクすく」）
- 職員の労働状況の適正な把握と集計業務の効率化のため勤怠管理システムを導入
- ノートパソコン及びタブレット端末の活用等によるペーパーレス化の推進

8 広報戦略

①各種媒体を通じた積極的な広報活動

業界紙や地域経済誌への広告を掲載し、幅広く施設PRを行った。

また、業界関係者を対象とした国際 MICE エキスポ（IME）、イベント総合エキスポ（LIVeNT）へ出展し、主催者や関係者に対し、対面での直接的な広報・営業活動を行った。

なお、世界水泳おもてなし事業について、特設サイトの開設や定期的にX（旧 Twitter）で情報発信を行い、期間中のXインプレッションが対期間直前の同日数比14倍、リポスト同9.9倍を記録し大幅に向上した。

②ホームページ、SNSでの発信

施設の特長や魅力を伝えるために新たに制作したプロモーション動画及び博多駅・天神地区のバス乗り場の案内図をホームページ上で公開した。

また、コンベンションゾーンの魅力や活気を伝えるため、財団公式 SNS（Facebook, X）を活用し、催事情報を積極的に発信するとともに、駐車場情報等の発信により来場促進及び来場者へのサービスの向上に努めた。

9 各施設の利用状況

（1）福岡国際会議場

○利用状況（会議室ごと）

区 分	利用室数	利用可能室数	利用率
多目的ホール（4室）	735室	920室	79.8%
メインホール（1室）	179室	230室	77.8%
国際会議室（1室）	178室	230室	77.3%
小 計	1,092室	1,380室	79.1%
中・小会議室（18室）	2,691室	4,140室	65.0%
合 計 （24室）	3,783室	5,520室	68.5%

※利用率(室数)は、利用室数(3,783室)÷利用可能室数(5,520室=230室×会議場全24室)

※利用可能日数は、1年(366日)－休館日等(30日：年末年始の6日＋月2日程度の法定点検や工事、修繕等＋大規模改修工事 R5年12月3日～R6年3月31日)

○利用状況（催事ごと）

区 分	利用件数	入場者数
国 際 会 議	19件	45,859人
国 内 学 術 会 議	17件	17,373人
展 示 会	48件	18,569人
コンサート・興行	33件	33,481人
国内一般会議等	397件	79,364人
合 計	514件	194,646人

○主な催事 ※＜ ＞は併用施設

名 称	開催期間	入場者数
第53回MDRT日本会大会 in 福岡＜センター＞	4月20日～21日	3,715人
第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 ＜センター＞	4月24日～26日	6,300人
第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・ 学術講演会	5月18日～20日	4,603人
第73回日本東洋医学会学術総会	6月16日～18日	3,700人
第60回日本リハビリテーション医学会学術集会 ＜センター＞	6月29日～7月2日	5,040人
World Aquatics Congress	7月25日	401人
ISB/JSB2023	7月30日～8月3日	1,370人
9th International Tribology Conference, Fukuoka 2023 (ITC Fukuoka2023)	9月26日～30日	950人
第37回日本手術看護学会年次大会＜B館＞	10月27日～28日	4,000人
第96回日本生化学会大会＜B館＞	10月31日～11月2日	4,730人
第62回日本臨床細胞学会秋期大会	11月4日～5日	5,400人
第2回環境に配慮した持続可能な建設技術に関する 国際会議（CREST2023）	11月20日～22日	350人

(2) マリンメッセ福岡A館

○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	12件	46日	175,037人	98.2%
コンサート・興行	26件	96日	539,476人	
会 議 ・ 集 会	5件	11日	26,042人	
アマチュアスポーツ	1件	180日	103,744人	
合 計	44件	333日	844,299人	

※利用率は、利用日数（333日）／利用可能日数（339日）

○主な催事 ※＜ ＞は併用施設

名 称	開催期間	入場者数
世界水泳選手権2023福岡大会<B館>	7月14日～30日	103,744人
浜田省吾「ON THE ROAD 2023 Welcome back to The Rock Show youth in the “JUKEBOX”」	10月7日～8日	20,657人
モノづくりフェア2023<B館>	10月18日～20日	14,641人
福岡キャンピングカーショー2023	11月11日～12日	9,028人
FOOD STYLE Kyushu 2023<B館>	11月14日～15日	10,168人
2023ヤクルト世界大会<B館>	11月19日	2,800人
第1回 ものづくりワールド[九州]<B館>	11月29日～12月1日	5,892人
FUKUOKA MOBILITY SHOW 2023<B館>	12月22日～25日	78,369人
令和6年福岡市消防出初式	1月6日	9,000人
令和5年度 福岡市成人の日記念行事 「はたちのつどい」	1月8日	3,000人
ポケモンカードゲーム チャンピオンズリーグ2024 福岡<B館>	2月17日～18日	11,907人
全国陶磁器フェアin福岡2024	3月20日～24日	24,991人

(3) マリンメッセ福岡B館

○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	20件	71日	132,294人	85.4%
コンサート・興行	6件	17日	23,615人	
会 議 ・ 集 会	12件	23日	21,888人	
アマチュアスポーツ	2件	176日	25,705人	
合 計	40件	287日	203,502人	

※利用率は、利用日数（287日）／利用可能日数（336日）

○主な催事

名 称	開催期間	入場者数
世界水泳選手権2023福岡大会<A館>	7月16日～29日	23,716人
ART FAIR ASIA FUKUOKA 2023	9月22日～24日	10,530人
第6回 CareTEX福岡'23	10月4日～5日	3,950人
バックオフィス／営業・マーケ／店舗・EC DXPO福岡'23	10月10日～13日	14,784人
モノづくりフェア2023<A館>	10月18日～20日	9,151人
第37回日本手術看護学会年次大会<会議場>	10月27日～28日	4,000人
第96回日本生化学会大会<会議場>	10月31日～11月1日	4,730人
FOOD STYLE Kyushu 2023<A館>	11月14日～15日	6,355人
第1回 ものづくりワールド[九州]<A館>	11月29日～12月1日	3,683人
SPORTEC Fukuoka 2023	12月13日～14日	5,000人
ポケモンカードゲーム チャンピオンズリーグ2024 福岡<A館>	2月17日～18日	7,442人
カーボンニュートラルEXPO	3月23日	5,000人

(4) 福岡国際センター

○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	43件	139日	180,708人	80.9%
コンサート・興行	17件	42日	97,407人	
会 議 ・ 集 会	21件	40日	37,474人	
アマチュアスポーツ	6件	15日	22,752人	
大 相 撲	1件	36日	95,838人	
合 計	88件	272日	434,179人	

※利用率は、利用日数（272日）／利用可能日数（336日）

○主な催事

名 称	開催期間	入場者数
2023年全日本選抜柔道体重別選手権大会	4月1日～2日	4,300人
第53回MDRT日本会大会 in 福岡<会議場>	4月20日～21日	3,715人
第67回日本リウマチ学会総会・学術集会<会議場>	4月24日～26日	6,300人
博多ハンドメイドマルシェ	5月20日～21日	6,900人
KARATE 1 プレミアリーグ2023福岡大会	6月9日～12日	3,663人
第46回九州デンタルショー2023	6月17日～18日	9,002人
第60回日本リハビリテーション医学会学術集会 <会議場>	6月29日～7月2日	5,040人
松田聖子 「Seiko Matsuda Concert Tour 2023 “Parade”」	7月15日～16日	10,666人
Food EXPO Kyushu 2023	10月4日～5日	4,000人
ルピシア グラン・マルシェ 2023	10月14日～15日	16,000人
大相撲十一月場所	11月12日～26日	95,838人
九州旅行博覧会～トラベラーズフェス2024～	2月24日～25日	13,215人

10 各施設の利用状況及び事業収入の推移

(1) 利用状況の推移

(ア) 福岡国際会議場

区 分	平成元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
利用件数	796件	412件	620件	778件	514件
入場者数 (前年度比)	356,094人 (99.3%)	70,657人 (19.8%)	140,612人 (199.0%)	299,525人 (213.0%)	194,646人 (64.9%)
利用率	64.8%	30.5%	39.0%	61.1%	68.5%
国際会議室・メインホール・ 多目的ホール	77.7%	31.8%	43.2%	69.8%	79.1%
中・小会議室	60.4%	30.0%	37.6%	58.2%	65.0%

※室数で算出（国際会議室1室、メインホール1室、多目的ホール4室、中・小会議室18室）

(イ) マリンメッセ福岡A館

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
利用件数	87件	20件	40件	65件	44件
入場者数 (前年度比)	1,174,928人 (85.7%)	72,979人 (6.2%)	417,022人 (571.4%)	944,871人 (226.5%)	844,299人 (89.3%)
利用日数	280日	44日	140日	225日	333日
利用可能日数(※1)	336日	298日(※2)	265日(※3)	340日(※4)	339日(※5)
利用率	83.3%	14.7%	52.8%	66.1%	98.2%

(※1) 保守点検日等を除く

(※2) コロナ感染拡大による緊急事態宣言発令に伴う臨時休館日（令和2年4月4日～5月17日）を除く

(※3) 大規模改修期間（令和4年1月11日～3月31日）を除く

(※4) 年末年始の休館日利用（令和4年12月29日～31日、令和5年1月2・3日）を加算

(※5) 年末年始の休館日利用（令和5年12月29日～31日）を加算

(ウ) マリンメッセ福岡B館

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
利用件数			16件	39件	40件
入場者数 (前年度比)			124,800人 (-)	158,970人 (127.3%)	203,502人 (128.0%)
利用日数			130日	110日	287日
利用可能日数(※1)			335日	335日	336日
利用率			38.8%	32.8%	85.4%

(※1) 保守点検日等を除く

(エ) 福岡国際センター

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
利用件数	91件	28件	43件	66件	88件
入場者数 (前年度比)	478,867人 (91.0%)	48,417人 (10.1%)	139,081人 (287.2%)	325,336人 (233.9%)	434,179人 (133.4%)
利用日数	271日	60日	136日	209日	272日
利用可能日数(※1)	336日	295日(※2)	335日	335日	336日
利用率	80.7%	20.3%	40.5%	62.3%	80.9%

(※1) 保守点検日等を除く

(※2) コロナ感染拡大による緊急事態宣言発令に伴う臨時休館日(令和2年4月4日~5月17日)を除く

(オ) 4施設合計(2020年度までは3施設合計)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
利用件数	974件	460件	719件	948件	686件
入場者数 (前年度比)	2,009,889人 (89.1%)	192,053人 (9.5%)	821,515人 (427.7%)	1,728,702人 (210.4%)	1,676,626人 (96.9%)

(2) 事業収入の推移

(ア) 福岡国際会議場

(単位:千円)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
コンベンション事業	486,187	184,889	296,965	474,553	372,600
レストラン等事業	27,200	5,466	9,071	14,827	20,366
駐車場事業	10,179	719	2,153	4,976	4,536
計	523,566	191,074	308,189	494,356	397,502
対前年度比	84.7%	36.5%	161.3%	160.4%	80.4%

(イ) マリンメッセ福岡A館

(単位:千円)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
コンベンション事業	1,018,808	138,378	890,439	877,473	986,243
レストラン等事業	28,384	3,240	10,750	26,334	23,264
駐車場事業	72,798	22,527	77,338	136,808	177,626
計	1,119,990	164,145	978,527	1,040,615	1,187,133
対前年度比	90.8%	14.7%	596.1%	106.3%	114.0%

(ウ) マリンメッセ福岡B館

(単位：千円)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
コンベンション事業			362,126	214,323	404,859
レストラン等事業			1,251	5,339	4,670
駐車場事業			5,574	3,490	6,676
計			368,951	223,152	416,205
対前年度比			—	60.4%	186.5%

(エ) 福岡国際センター

(単位：千円)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
コンベンション事業	326,915	67,211	190,990	267,056	353,225
レストラン等事業	10,560	1,503	3,629	8,742	12,598
駐車場事業	2,113	105	623	1,425	2,102
計	339,588	68,819	195,242	277,223	367,925
対前年度比	83.2%	20.3%	283.7%	141.9%	132.7%

(オ) 4施設合計

(単位：千円)

区 分	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
コンベンション事業	1,831,910	390,478	1,740,520	1,833,407	2,116,927
レストラン等事業	66,144	10,209	24,701	55,242	60,898
駐車場事業	85,090	23,351	85,688	146,701	190,940
計	1,983,144	424,038	1,850,909	2,035,350	2,368,765
対前年度比	87.8%	21.4%	436.5%	109.9%	116.4%

※本表中単位を千円としている為、合計と合わないものがあります。